【事例報告】

竹がつなぐ地域の輪（和）

那珂川バンブークラブ

代表 岩崎 愈氏

ただいまのバンブーオーケストラの演奏は如何でしたでしょうか。

団員数は30名程いますが、低学年から70才まで非常に幅広い層が担当しています。今日は学校が平日のため子どもたちが参加出来ませんでした。

それでは私の方から活動の内容について、ご紹介させていただきます。

那珂川市文化協会は、行政から場所の提供を受け、今、中央公民館の中に事務所を構えています。事務所の中には生涯学習課と地域振興課も一緒に入っているため大変文化情報が集まりやすい状況で、ロゴ（冠）も「文化の力でまちづくり」という掛け声で活動しています。我々文化ボランティアの拠点になっています。そういうことから、この文化協会での役員の活動を通じて体験したものを支えに、さらにバンブーオーケストラの要請を基に広がった竹に関する事業の紹介と併せて、その中でボランティアがどういう活動をしていったかをお話させていただきます。

我々のボランティア活動は、非常にハードな活動でございます。

今まではボランティア活動は、ソフト面のイメージを持たれていると思いますが、竹を切ったり、運んだりといった活動や宿泊を伴うようなものもありますので、その辺をお話ししたいと思います。

まず、文化協会の役員になったことが、その後の文化ボランティアに参加した原点でもあり、文化協会の求めるものでもあったわけでございます。そういうことで、まず、文化協会の活動から役員の立場はどういうものかを先ずご紹介させていただきたいと思います。

文化協会の組織そのものは、市から助成金を貰って経営・運営に当たっています。

今一つは文化行政の一端を担っているという役割がございます。文化協会の役員というものがどういう役割を持っているかと言いますと、組織に与えられた役割を十分に認識しながら、自分で担当した部所の業務遂行することが大きい課題としてあります。そして組織としての、その行政の一端を担っていることから、地域の文化振興にどれだけの貢献ができるかということ。したがって組織としては、一つにはこの文化部門の拠点になる場所ですので行政と文化協会が一体となって共同で推進できるものでないといけません。そういうことから、役員も自ずと市の総合計画に沿った行動が出来ないといけません。

那珂川市で基本になっている文化活動関係の計画と申しますと、一つには、歴史的に価値の高い歴史遺産がしかも豊富にあります。こういう歴史遺産を活かしたまちづくりというのを掲げています。今一つは豊かな自然があり、自然との共生というものがあります。

これらを意識しながら役員は活動に携わっていきます。

一般的にボランティアになりたいという人たちは、何か社会との繋がりを持っていたり、或いは地域のために役に立つようなものに関わりたいと思いますが、我々の文化団体で特に文化協会の役員になっている者の意識というものは、先程申しましたような行政の方針に沿ったものを如何に実現できるかということです。

その中から先ず手掛けたものが「バンブーオーケストラ那珂川」の編成という事業でした。

狙いは那珂川地域の「那珂川」というものをどうしたら PR できるかというのが主体で、もう一

つは市民の間にシンボルとなるようなものが欲しい、という期待が非常にありました。

それから、中学生とのまちづくり討論会の時に、まちの自慢になるものが那珂川市には無いじゃないか、というような指摘がありました。

何かシンボルになるようなものとしての発想がバンブーオーケストラの編成でございます。

当初は大変な苦勞がありました、現在は30名程でレパートリーも90曲くらいになっています。そして、市内や域外でも演奏の機会は増えており、明日は竹田市において公演をするようになっていきます。そんなことで地域に定着しながら前に進んでおり、これからも精進しながら、さらに技術の向上に努めて参るところです。

バンブーオーケストラの編成から、楽器を作るためには、どうしても竹を切り出さなければ出来ません。竹を切り出すためには、遺跡周辺にも竹林が非常に多いので、まちの遺跡を資源とするまちづくりにも沿ったものとして考える必要があります。

その一つに、安徳大塚台という歴史的に非常に著名的な遺跡があります。

そこは平家が都落ちする時に安徳天皇を守って、ここに一時逗留したという言い伝えもあります。

また、古代の大変大きな古い集落の跡ともいわれています。歴史的に著名なものでありまして、2月には国指定になっていますので、これから整備が進んでいくものと思われませんが、その中にある竹林を映像で示していますように切り出す活動をしています。

この切り出した竹で、次は「裂田（さくた）の溝（うなで）」のライトアップを考え出しました。「裂田の溝」は1300年も前に造られた古い用水路で、全長は5kmありますが、1.5kmくらいの範囲を「灯籠」を灯して存在をアピールしていこうという考えです。

これを実行するために我々ボランティアが課題として取り組んだのは、一つには地域のコミュニティの進化をどう図っていくかです。

那珂川市は急速に発展して人口が増えたところですので、古くからの住民の方々、新しい住民の方々にもいろいろと融和策を行政としても力を入れているところです。

ライトアップをするに竹灯籠を作る話も出ましたが、大変技術もいりますし労力もいるわけで、誰でも作れる紙灯籠になりました。牛乳パックを利用して作った紙灯籠を持ち寄り、お互いにアイデアを出しあいながら、どういう絵を描いたら良いかなどを相談しながら作っていくわけです。その中から地域の繋がりが高まるのではないかと考えました。

今一つは、学校のコミュニティスクールに考えていただけないか、学校のコミュニティスクールには運営協議会というものがありますので、そこに地域の課題として提案をさせていただきました。今は学級をそれぞれ指定して、那珂川市には小学校が7校、中学校が3校ありますが、全校から参加をしてくれています。それぞれに紙パックや紙コップをいろいろ趣向を凝らした絵を描いたパネルの上に並べる。それぞれの学校で、考えたもので灯籠をライトアップの時に指定された位置に灯してくれる。こうすることによって、子どもたちにできるだけこの「ふるさと」というものを感じてもらい、故郷の素晴らしい景色というものを良く理解して、これからの継続的な保存、そういうものに携わってもらう事を特に願ってすすめているところです。

下にありますが絵や、ライトアップの状況です。

こういうふうな竹で非常に大きいものから小さいものまでいろいろ作られています。このライトアップを明日、夕方5時からやる予定で、天候にも恵まれそうで安心しているところです。

実は実行委員をやっています、今日は準備のために現場を離れることが大変難しかったのですが、今日のお話をお断りすることが出来ませんで、出かけて来たわけです。

そういうことでライトアップもボランティアがいろいろ企画をしたり灯籠の撮影をしたり、竹の切り出しからやっております。

「裂田の溝」のライトアップからもまた1つの竹事業の発展があります。

使い終わった竹灯籠の処分をどうするかということから、これを竹炭にしていこうという発想になりました。今、竹炭の担当がやっていますが、これは3日間泊まり込みでは釜焚きをしなければならないという大変ハードな業務になっています。

課題としては、あと、商品開発を進めて参ります。その竹炭の効用とその利用の範囲を広げて行くという活動に取り組みなければいけないと思っております。

次に発想したのが「竹細工」でございます。これも安徳台で切り出した竹が真竹の良質な竹材で、これを活用して「竹細工」を今やっているところですが、これも最近ではプラスチックの代わりとして見直されてきています。食品用のトレーですね、こういうものに代替わりが出来るのではないかということで、商品開発に取り組んでいきたいと思っております。

いろいろご説明をして参りましたが、この文化協会の組織の役割から実践し、バンブーオーケストラを編成して竹に関わる事業の展開、そして活動参加の広いひろがり等の紹介をして参りましたが、それぞれの課題の中で取り組んだボランティア、そして正面に向き合っただけにすすめるボランティアの姿、こういうものの中からは私の体験からも地域文化の振興にかける情熱以外の何物でもないと思っております。

ささやかではございますが、私が考えますボランティアの人物像といたしましては、一つ目は軽快なフットワークと、出来ないではなく出来る方法を考える。

それには二つ目として酒が飲めるということです。酒を飲みながら夢を語る仲間ができる、それが次の活動の方向になってきております。

我々もこれから文化活動をひたすら進めるという誓いと、そして指導等において貢献の出来る活動を続けて参りたいと思っております。

どうも短い時間ご清聴ありがとうございました。